

第3回薬液注入工法の設計・施工法および試験法に関する研究委員会議事録

日 時：2012年10月15日 15:00～17:00

場 所：地盤工学会 地下会議室

出席者：

委員長 末政直晃（東京都市大学）

委員 赤木寛一（早稲田大学），稲川雄宣（大林組），今井敬介（グラウト工業），江藤政継（日特建設），大野康年（東亜建設工業），岡田和成（日本基礎技術），小峯秀雄・阿部聡（茨城大学），佐々木隆光（強化土エンジニアリング），澤田亮（鉄道総合研究所），新坂孝志（三信建設工業），高田徹（設計室ソイル），利田靖治（東曹産業），中嶋陽一（ケミカルグラウト），羽田哲也（ライト工業），林健太郎（五洋建設），深田久（不動テトラ），水野健太（若築建設），本橋俊之（大阪防水建設社），安井利彰（前田建設工業），鎗田哲也（鹿島建設）

以上 23 名

配布資料：

- 3-1 第2回議事録
- 3-2 耐久試験における予備試験（2回目）
- 3-3 WG活動予定表
- 3-4 WG-1 検討課題
- 3-5 WG-2 検討課題
- 3-6 WG-3 検討課題
- 3-7 WG-4 検討課題

議 事：

1. 前回議事録の確認（資料3-1）

準備会議事録が報告され確認と修正を行なった。

2. 耐久性試験について（資料3-2）

耐久試験に先立ち実施した2回目の予備試験結果が報告された。2回目の予備試験では1回目と同様に豊浦砂を用い、相対密度を60%に調整した供試体に薬液を浸透し、材令28日で一軸圧縮強度測定を行った。

その結果、材令7日で実施した試験結果より、相対密度・湿潤密度・一軸圧縮強度の変動係数が低くなる傾向を示し、ある程度固化した状態ではバラツキが少なくなる傾向を示した。しかし、飽和度は1回目と同様に低く算定された。

これらの報告について以下の検討を行った。

- ① 飽和度については、「ゲル化に伴う離床水の発生が影響を及ぼしているのではないか」等の議論を行った。
- ② バラツキについては耐久試験結果へどの様に反映するのか？→統計処理を行い検討する。
- ③ 一般的な一軸圧縮強度のバラツキについて。→粘性土の一軸圧縮強度のバラツキを調査する。
- ④ バラツキの要因として破壊モード等が考えられる。→今後、観察を行う。

3. 研究委員会における活動方針（資料 3-3～3-7）

第 3 回研究委員会に先立ち、各 WG リーダーが WG メンバーに検討課題をヒヤリングし、その結果と、今後の予定について WG リーダー会を 10 月 10 日に開催した。そこで今後の活動方針について検討を行った結果について以下の報告がされた。

- ① WG によって課題に対する取り組み方が異なるため WG を主体に今後活動を行う。
- ② 全体打合せ（研究委員会）は年に 3 回開催し、その間に WG 毎に 1～2 回ほど WG 会を開催し、課題について検討を行う。
- ③ 各 WG の課題については資料 3-4～3-7 を参照

4. その他

各 WG に分かれ、具体的内容・今後の予定・作業の分担について打ち合わせを行った。

5. 次回

平成 25 年 1 月 28 日 14：00～地盤工学会にて開催予定

以上